

学校だより 臨時号 令和5年12月

京都市立八瀬小学校

校長 星尾 尚志

令和5年度 前期学校評価アンケート

2学期も大詰めを迎えました。2023年もあと少しです。コロナ禍でいろいろあった制限が解除され、これまでの日常が戻ってきた前期でした。なかでも、地域のお祭りや行事への参加できたことを大変うれしく思います。また学校での生活では、3月までは着用が当たり前だったマスクですが、4月からは着用不要になりました。子どもたち一人一人の表情が見られるようになり、これまでマスクの下にかくれていた素敵な笑顔に心が和みます。感染症への警戒はまだ必要ですが、子どもたちが子どもたちらしく生活できる日常を大切にしたいと思います。

さて先日ご協力いただきました、令和5年度の学校評価アンケートのまとめをお知らせさせていただきます。

学校に楽しく通っている

毎日の生活の場である学校は子どもたちにとって楽しい場所でしょうか。

	楽しく通っている	だいたい楽しい	あまり楽しくない	楽しくない	わからない
児童	48%	40%	7%	2%	2%
保護者	48%	42%	0%	0%	10%

児童の回答では、88%が「楽しい」と肯定的な回答をしています。保護者もほぼ同じく90%が「楽しい」と肯定的な回答でした。児童と保護者の9割が「学校は楽しい」と感じていることにほっと安心をします。互いに近い数字が出ているのは、毎日のおうちでの子どもたちの様子をよく見られているからこそ、そう感じ取られているのだと思います。毎回大事に考えないといけないと思うことは、否定的な回答の10パーセントの子どもたちのことです。「あまり楽しくない」と回答した子どもたちの思いに寄り添えるように毎日の見守りを大切にしていけることが大事なことだと思います。

自分も人も「大切にすることができているか？」についてです。

だれとでも仲良く	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	どうかわからない
児童	36%	52%	10%	0%	2%
保護者	23%	68%	6%	0%	3%

『だれとでもなかよくできている』ためには、自分も人も大切にすることが必要です。保護者も子どもも「だいたいできている」の回答がトップになっています。約半分の児童が「だいたいできている」と回答し、保護者では7割近くが「だいたいできている」と感じているようです。「できていない」という回答が児童からも保護者からも出なかったことには注目したいと思います。仲良くできない子はゼロということですから、互いにみんなが相手のことを理解し分かり合おうとしていることかと思えます。『学校は楽

しい』かという問いの回答結果が、先のようにになっているのもこのためといえそうです。八瀬の子どもたちの優しい雰囲気の原因はここにあるのでしょうか。

勉強は？？？

学習についてのアンケートです。児童には自分から学習に向かっていますかという意味で『勉強は楽しいですか』。保護者の方には子どもたちが『意欲的に学習に取り組んでいる』かという問いで回答していただきました。また、教師は『わかりやすい授業を展開』できているのかという問いも併せて回答していただきました。

勉強は楽しい	たのしい	まあたのしい	あまりたのしくない	たのしくない	どうだかわからない
児童	32%	49%	7%	7%	5%
意欲的に学習	意欲的	やや意欲的	あまり	意欲的でない	わからない
保護者	26%	45%	23%	0%	6%

保護者の回答では「やや意欲的」が45パーセントで約半分でした。児童も「まあたのしい」がほぼ同じ回答率です。しかし子どもの「たのしい」という回答は32%で、保護者は26パーセントでした。保護者の方が思っておられるより子どもたちは学習に対してやや前向きようです。児童の8割が「勉強は楽しい」と肯定的な回答で「あまり楽しくない」「楽しくない」の否定的な回答は保護者が思っておられるより少ない傾向にありました。すこしちがった角度でおうちでの学習の様子を見ていただくと、またちがった発見があるように思います。

わかりやすい授業	よくわかる	だいたいわかる	あまりわからない	よくわかっていない	どうだかわからない
児童	64%	31%	2%	0%	2%
保護者	35%	42%	6%	0%	16%

『授業のわかりやすさ』については、児童の95パーセントが「よく分かる」「わかる」と肯定的な回答でした。これは授業を受け持つ担任たちにとっては大変喜ばしい数字です。保護者の方でも約8割の肯定的な回答をいただきました。ただし「あまりわからない」「よくわからない」などの否定的な回答は、判断の基準になる情報の少なさがあるかもしれません。判断の基準は、授業参観・テスト結果・家庭での児童の声などになるかと思います。普段の様子をよりよく知っていただくためには、HPや毎週のお便りなどを有効に活用して普段の授業の様子などを分かりやすく伝えていくことが大事になってくると思います。一人一人の困りや思いをしっかりとらえて学ぶことの「楽しさ」「面白さ」を見つけていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

朝は余裕ある？

昨年度は、毎月7日を「7時起きデー」としていました。「早寝・早起き」については、個々の生活習慣の中で「早寝」を取り上げて実行につなげるのはなかなか難しい面があると考えていました。学校生活を調子よくスタートするためには午前7時には起床したい。午前7時に起きるためには就寝時間をどうすればよいかと逆に考えてほしいという思いでした。しかし本校の実態としては7時の起床では非常にあわただしい朝の時間を過ごす子どもが出てきます。そこで、今年度は『余裕をもって一日をスタートするには何時に起きればよいのか』を考えたいと生活のプログラムを考えています。

ゆとりをもって起きる	起きている	だいたい起きている	あまり起きられない	起きられない	どうだかわからない
児 童	36%	29%	24%	5%	7%
保護者	26%	45%	29%	0%	0%
保護者重要度	68%	32%	0%	0%	0%

アンケートの結果は上の表のようになりました。児童のアンケートでは、「起きられない」はほぼありませんでした。「起きている」「だいたい起きている」「あまり起きられない」がよく似た数値になっています。保護者のアンケートを見ると、「だいたい起きられている」が最も多く、「起きられている」「あまり起きられない」が同じような数値になりました。十分満足なのではないと思います。保護者の方の重要度を見てみました。「余裕を持って起きる」ことに肯定的・やや肯定的で100パーセントです。ゆとりをもって一日をスタートすること、生活のリズムを整えることは大切なことと考えておられるのがわかります。しかし実現度を見ると実際にはなかなかむづかしいことが見えています。このあたりをどのようにしていくかということが今後の課題になると思います。余裕を持った一日の順調なスタートを切れるようにお家でも話題に挙げていただけたらと思います。

毎朝の食事についても尋ねてみました。

朝ごはんを食べる	食べている	だいたい食べている	あまり食べていない	食べていない	どうだかわからない
児 童	63%	27%	0%	7%	2%
保護者	58%	32%	10%	0%	0%
保護者重要度	81%	19%	0%	0%	0%

児童の90パーセント、保護者も90パーセントが肯定的な回答です。朝ごはんについては、大丈夫と思ってよいかなと思います。保護者の重要度を見ると、『朝ご飯を食べる』ことが「重要」との回答が81%であり、「やや重要」が19%で100パーセントになります。それが重要度と実現度を比べると「朝ごはんを食べることは大事だけど実際にはなかなか難しい」ということでしょうか。朝の慌ただしさの中でつい抜けてしまうことがあるという感じなのでしょう。余裕をもって一日をスタートするために起床時間と睡眠時間を考えていくことがやはり大事なことのだと思います。

あ・い・さ・つ

すすんであいさつ	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	どうだかわからない
児 童	33%	55%	10%	2%	0%
保護者	6%	68%	19%	3%	3%

「あいさつ」についての問いです。児童・保護者とも半数以上が『まあまあ』と捉えています。保護者では、「よくできている」は6%しかありません。毎回話題にあがる項目です。「よくできている」と思っている児童は33パーセントに対し、「よくできている」と感じている保護者の方は6パーセントです。大人が望むあいさつと子どもができていると思っているあいさつにギャップがあるということです。校内の委員会で話題にしました。「よくできる」「大体できる」の基準のあいまいさがある。あいさつについての共通認識と雰囲気大切にしたいなど、考えるべき点が出てきました。みんなが気持ちよく朝の声が出せるように児童会やPTAとも一緒に考えていきたいと思います。

読書は好きなんです

たくさん本を読んでいる	読んでいる	まあまあ読んでいる	あまり読んでいない	読んでいない	どうだかわからない
児 童	19%	45%	21%	14%	0%
保護者	13%	32%	39%	16%	0%

読書も毎回実現度が低いものとして出てきます。数字を見ると確かに高くはありません。保護者の回答で「あまり読んでいない」が大きいです。学校司書の先生とこの数字について話してみました。子どもたちの読書量はアンケート結果でみるともう少し頑張りが必要かなと思えそうに見えます。しかし、毎日の朝読書や必要な時の調べ学習、教科の学習の中での図書の利用など、本校は必要な時にタイムリーに図書が利用できる環境だと思います。図書の貸出数や家庭での読書量は低いかもしれませんが、図書コーナーの利用は決して低いわけではないと思えます。家でも学校でも、子どもたちが読みたいときに読書に向かえる環境を大切にしたいと思えます。

以上、今回のアンケートの回答などから気になる点を挙げさせていただきました。3学期もどうぞよろしくお願いします。記述欄ではコロナ禍からの行事の復活や日々の取り組みの情報発信についてや、子どもたちが楽しく登校していることなどの貴重なご意見をいただきました。今後に活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

	児 童					保 護 者				
	よく出来る	大体できる	あまり	出来ない	わからない	よく出来る	大体できる	あまり	出来ない	わからない
楽しく学校に通う	48%	40%	7%	2%	2%	48%	42%	0%	0%	10%
自分からあいさつをする	33%	55%	10%	2%	0%	6%	68%	19%	3%	3%
だれとでも仲良くする	36%	52%	10%	0%	2%	23%	68%	6%	0%	3%
学校のきまりを守る	19%	67%	2%	5%	7%	26%	71%	0%	0%	3%
勉強は楽しい	32%	49%	7%	7%	5%	26%	45%	23%	0%	6%
授業は分かりやすい	64%	31%	2%	0%	2%	35%	42%	6%	0%	16%
一人一人を大切にしている	※	※	※	※	※	45%	26%	6%	3%	19%
家庭でも進んで学習	27%	32%	27%	12%	2%	26%	45%	23%	0%	6%
たくさん本を読んでいる	19%	45%	21%	14%	0%	13%	32%	39%	16%	0%
運動やスポーツで体力を高める	64%	19%	12%	0%	5%	39%	48%	10%	0%	3%
ゆとりをもって起きる	36%	29%	24%	5%	7%	26%	45%	29%	0%	0%
朝ごはんを毎日食べる	63%	27%	0%	7%	2%	58%	32%	10%	0%	0%
家でお手伝い	21%	43%	21%	10%	5%	23%	39%	32%	6%	0%
地域の行事に参加する	45%	31%	10%	12%	2%	42%	48%	10%	0%	0%
困り事やいやなことはない	38%	19%	14%	19%	10%	※	※	※	※	※
困り事・悩み事を相談できる	69%	14%	5%	7%	5%	※	※	※	※	※
学校は、様子をわかりやすく伝えている	※	※	※	※	※	39%	55%	3%	0%	3%